学校番号	3010

令和8年度　　工業　　科

教科	工業	科目	デザイン史	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	デザイン史（実教出版株式会社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

デザイン史の授業では、造形とデザインの鑑賞により創造的かつ効果的なデザインに必要な資質・能力を育成することを主眼として内容を構成しています。工業技術の進展により多様化する工業製品の製造に対応するため、過去の造形・デザイン事例の鑑賞や体験を通して得られる知見やアイデアをもって身近なデザインへ活かすために歴史的な背景を踏まえて理解し、デザインにおける様々な状況に対応できる知識を身に付けるように学習します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・造形とデザインの鑑賞により創造的かつ効果的なデザインができるよう理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
・デザイン史を人間がものをつくりだしてきた創造の営みを振り返る視点で捉える。
【学びに向かう力、人間性等】
・人間生活、自然、社会及び工業生産を相互に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	デザインについて歴史的な背景を踏まえて理解するとともに、関連する知識を身に付けるようにする。デザインについて歴史的な背景を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、適切に活用している。	歴史的なデザイン事例からデザインに関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。	歴史的なデザイン事例と造形方法を踏まえて独創的にデザインする力の向上をめざして自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	デザイン史①	・日本のデザイン 古代の生活と造形 中世の生活と造形 ・西洋のデザイン 古代の生活と造形 中世の生活と造形	a:日本のデザインと西洋デザインについて歴史的なデザイン事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、適切に活用している。 b:歴史的なデザイン技術に着目して、デザインに関する課題を見いだすとともに構想を立て、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善しようとしている。 c:日本のデザインと西洋デザインについて自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等
2	デザイン史①	・日本のデザイン 近世の生活と造形 近代の生活とデザイン ・西洋のデザイン 近世の生活と造形 近代のデザインの成立と展開	a:日本のデザインと西洋デザインについて歴史的なデザイン事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、適切に活用している。 b:歴史的なデザイン技術に着目して、デザインに関する課題を見いだすとともに構想を立て、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善しようとしている。 c:日本のデザインと西洋デザインについて自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等
3	デザイン史①	・日本のデザインまとめ ・西洋のデザインまとめ ・現代のデザイン	a:日本のデザインと西洋デザインについて歴史的なデザイン事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付け、適切に活用している。 b:歴史的なデザイン技術に着目して、デザインに関する課題を見いだすとともに構想を立て、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善しようとしている。 c:日本のデザインと西洋デザインについて自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 プリント レポート テスト 発表 自己評価・相互評価 等

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度